

令和 6 年能登半島地震・令和 6 年奥能登豪雨復興支援事業

「ひと、能登、アート。」

アート
文化財がつなぐ。Art for the Noto Peninsula

30 の所蔵先から国宝 3 件・重要文化財 20 件を含む

86 件の文化財（アート）が能登のために集結

2024 年 1 月に発生した能登半島地震、さらに 9 月の奥能登地域における豪雨災害により被災された皆様に寄り添い、復興を支援したいという想いから展開する「ひと、能登、アート。」事業では 11 月 15 日（土）より展示事業が始まります。

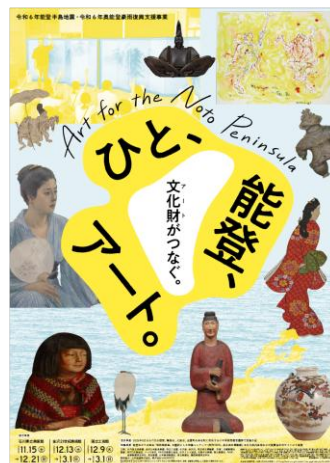
都内を中心とした 30 もの文化施設・個人などが所有する国宝 3 件・重要文化財 20 件・重要美術品 1 件を含む計 86 件の文化財が、各所蔵者からの復興への祈りのメッセージとともに石川県金沢市の 3 会場に集結します。

他会場に先駆けて 11 月 15 日（土）に開幕する石川県立美術館での展示では、国宝「秋冬山水図」・重要文化財「湖畔」・「見返り美人図」といった東京国立博物館を代表する名品や、桃山時代の七尾出身の画家・長谷川等伯の作品「牧馬図屏風」など能登ゆかりの作品、また本事業趣旨に賛同する各文化施設等が復興を支援する想いを込めて選定した作品計 43 件（うち、国宝 2 件、重文 14 件、重美 1 件）が出品されます。また同会場では本事業の映像事業として東京国立博物館と NHK が共同で制作した 3 DCG を使用した映像コンテンツ『8K×国宝「いま見つめる松林図屏風」』（制作 NHK・1 回約 2 6 分・無料）を上映します。

12 月 9 日（火）に開幕する国立工芸館には重要文化財「遮光器土偶」（東京国立博物館蔵）といった有名考古作品から、国宝「秋草文壺」（慶應義塾蔵）をはじめ日本陶磁の名品、中国・南宋時代の官窯による青磁碗や、フランス・セーヴルで制作された「竹に透かし彫りティーセット」（三菱一号館美術館蔵）など、古今東西の人々の生活に寄り添い、時に憧れの的となった作品計 28 件（うち、国宝 1 件、重文 6 件）が集います。

また同 13 日（土）に開幕する金沢 21 世紀美術館では、ルノワールの「ばらをつけた女」（国立西洋美術館蔵）などの西洋の名画や、金沢で学生時代を過ごした、細田守（スタジオ地図）による「おおかみこどもの雨と雪」グラフィック、アーティスト・井上涼が実際に能登の地へ足を運んで取材・制作をした「ネコ耳をつけたウミネコのウネミちゃん」などの多彩なラインナップの作品計 15 件が展示される予定です。

数百年の時を重ねて大切に守り伝えられてきた文化財の数々は、自然災害が絶え間なく襲う日本において、時に人々の安らぎの心を求める強い祈りが込められて造られてきたものです。そうした想いを被災された皆様へお届けできるよう、各会場では計 30 の出品所蔵先からの励ましのメッセージも作品とあわせてご紹介いたします。



【本件に関するお問合せ】

「ひと、能登、アート。」広報事務局（共同 PR 内） 担当：三井

E-mail. hito-noto-art-pr@kyodo-pr.co.jp

TEL. 03-6264-2382 / FAX. 0120-653-545

【展示事業 開催概要】 ※料金など詳細は各館公式サイトをご参照ください

会場・会期・開館時間・休館日

石川県立美術館 2025 年 11 月 15 日（土）～12 月 21 日（日）

〈開館時間〉9：30～18：00 ※入室は 17：30 まで

〈休館日〉会期中無休

金沢 21 世紀美術館 2025 年 12 月 13 日（土）～2026 年 3 月 1 日（日）

〈開館時間〉10：00～18：00（金・土は 20：00 まで）

〈休場日〉月曜日（ただし 1 月 12 日、2 月 23 日は開場）、12 月 30 日～1 月 1 日、1 月 13 日、2 月 24 日

国立工芸館 2025 年 12 月 9 日（火）～2026 年 3 月 1 日（日）

〈開館時間〉9：30～17：30 ※入室は 17：00 まで

〈休場日〉月曜日（祝休日は開館し、翌平日休館）、年末年始（12 月 28 日～1 月 1 日）

主催：石川県立美術館、金沢 21 世紀美術館、国立工芸館、石川県、金沢市、東京国立博物館

共催：北國新聞社

後援：MRO 北陸放送、テレビ金沢、HAB 北陸朝日放送、石川テレビ放送、北陸中日新聞、朝日新聞社、

NHK、産経新聞東京本社、東京新聞、日本経済新聞社、毎日新聞社、読売新聞東京本社

特別協力：日本通運株式会社、株式会社 108UNITED

【展示事業 出品作品所蔵先（五十音順）】

石橋財団アーティゾン美術館/出光美術館/© 井上涼/永青文庫/荏原 畠山美術館/MOA 美術館/大倉集古館/太田記念美術館/国(皇居三の丸尚蔵館)/慶應義塾/五島美術館/国立西洋美術館/サントリー美術館/静嘉堂文庫美術館/泉屋博古館,泉屋博古館東京/SOMPO美術館（損保ジャパンより寄託）/東京藝術大学/東京国立近代美術館/東京国立博物館/東京大学総合研究博物館/根津美術館/文化庁/前澤友作/前田育徳会/丸紅株式会社/三井記念美術館/三菱一号館美術館/山種美術館/早稲田大学會津八一記念博物館/©2012「おおかみこどもの雨と雪」製作委員会

各所蔵先には本事業にご賛同いただき、展示作品をご出品いただいたうえ、復興への励ましのメッセージをいただきました。同メッセージは各展示会場でご覧いただけますが、いくつかこちらでもご紹介いたします。

能登半島地震・奥能登豪雨で被災された皆様へ心よりお見舞い申し上げます。皇居三の丸尚蔵館から前田家とゆかりの深い旧桂宮家伝来の「網干図屏風」を出品いたします。網干図は漁を終えた網を干す漁村の情景を表したもので、山水画のモチーフとしてもよく描かれたものです。ここではそれを屏風に展開し、海から離れた場所でも平穏な暮らしを心に思い描く調度となっています。文化財レスキュー事業を通して、令和 6 年 3 月から多くの当館職員が能登に伺い、被災された皆様にあたたく迎えていただきました。皆様のご健康と一日も早い復興を願っております。

（国(皇居三の丸尚蔵館)）

本作品「能登紀行絵巻」は、昭和 15 年（1940）4 月に、加賀前田家 16 代当主の利為（としなり）が二泊三日の行程で、能登の各地を訪れた旅行の内容を、同行した日本画家の久保田金僊が描いた二巻の絵巻物です。能登は、天正 9 年（1581）に前田利家が初めて一国を拝領した土地であり、前田家にとって故地ともいえる地域です。妙成寺や総持寺、輪島朝市や時国家など、利為が巡った在りし日の風景を通じて、改めて能登の持つ歴史や文化、魅力を感じていただければ幸いです。本展が地震・豪雨被害からの復興に寄与することを心より祈念申し上げます。

（前田育徳会）

このたびの能登半島地震で被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。本展覧会のテーマに合わせまして、北陸の地に縁の深い作者による能面や、大聖寺藩前田家伝来とされる能装束を出展させていただきました。作品を通して、少しでも皆様のお力に添えることができましたら幸いです。震災からの一日も早い復興を切にお祈り申し上げます。

（三井記念美術館）

昨年の大地震、豪雨で被災された能登の皆様へ心よりお見舞いを申し上げます。

昭和 44 年夏、日本画家・奥村土牛は末の息子の運転で能登半島を旅行しました。本作品「朝市の女」は、その際に土牛が目にした、朝市で魚を売る女性の姿を描いたものです。今回のたび重なる災害で、朝市の開催も形を変えざるを得なくなったと伺いました。一日も早く、朝市をはじめ、能登の皆様の生活が復興されますようにとの思いを込めて、本作品を出品します。

（山種美術館）

かつて石川県で学んだ者の一人として、能登の地で懸命に歩みを続けてこられた皆さまへ、心からの励ましとエールをお送りします。災害から二年という時の中、決して容易ではない日々を乗り越えてこられた皆さまの強さに、深く尊敬の念を抱きます。重たい雲の隙間から眩しい輝きが差し込むように、きっと笑顔が広がる晴れやかな明日が訪れると想像いたします。能登が新しい未来へと続く光に照らされてゆくことを心より願います。

（細田 守・アニメーション映画監督）

金沢美大の卒業生であることから、この展覧会に参加するきっかけを得ました。石川県に 4 年住んだ経験が、この地で災害に遭う大変さを想像させます。「復興支援」にはいろいろな活動が含まれますが、その一歩めは現地のことを多様に想像することだと思います。私は音楽とアニメをつくるアーティストなので、音から現地のようすを想像するアニメ作品を作ることになりました。3 度能登にうかがい現地で聞こえる音を録音して、それをもとにストーリーと歌をつくりアニメーション作品（およびそのメイキング映像）として仕上げています。能登で聞こえた音は、2024 年以降に聞こえるようになった建物の解体の音もあれば、昔から変わらず聞こえるであろうごはんの支度をする音もありました。私の「復興支援」は作品をつくることで一つピークを迎えますが、このさきゆっくりと続けていくつもりです。

（井上 涼・アーティスト）

【各会場での主な展示作品】

本事業にご賛同頂いた都内を中心とした美術館・博物館・個人などから、励ましの想いとメッセージが込められた文化財の出品を受け展示を構成します。東京国立博物館からも館を代表する文化財を多分野にわたり出品いたします。

石川県立美術館 会期：2025 年 11 月 15 日～12 月 21 日



国宝 秋冬山水図

雪舟等楊 室町時代・15～16 世紀



見返り美人図

菱川師宣

江戸時代・17 世紀



重要文化財 鳥獣戯画断簡 平安時代・12 世紀



重要文化財 伝源頼朝坐像

鎌倉時代・13～14 世紀



祇園祭礼図屏風

江戸時代・17 世紀 サントリー美術館蔵



重要文化財 牧馬図屏風 長谷川等伯 安土桃山時代・16 世紀



丹鶴青瀾 平福百穂 大正 15 年(1926) 東京国立近代美術館蔵

金沢 21 世紀美術館 会期：2025 年 12 月 13 日～2026 年 3 月 1 日



イヴリー-河岸 アンリ・ルソー
1907 年頃 石橋財団アーティゾン美術館蔵



聖徳太子像 佐藤朝山
大正 8 年(1919)



《2023-06-27》
横尾忠則 令和 5 年 (2023)

国立工芸館 会期：2025 年 12 月 9 日～2026 年 3 月 1 日



重要文化財
遮光器土偶
青森県つがる市木造亀ヶ岡出土
縄文時代(晩期)・前 1000～前 400 年



重要文化財 青磁輪花鉢
中国・官窯 南宋時代・12～13 世紀



重要文化財
染付松樹文三脚大皿
有田・鍋島藩窯
江戸時代・17 世紀末～18 世紀初
サントリー美術館蔵



重要文化財 色絵月梅図茶壺
仁清 江戸時代・17 世紀



葆光彩磁葡萄唐草文花瓶
板谷波山
大正 4 年頃 (1915)
泉屋博古館東京蔵

※所蔵表記のないものは、すべて東京国立博物館蔵

【能登の各市町村における小中学校等教育機関での普及事業】

本復興支援事業の一つの柱として、2025 年 9 月から 11 月の期間で輪島市、七尾市、志賀町の各市町に所在する小中学校等教育機関計 16 校を訪問し、能登ゆかりの国宝「松林図屏風」の高精細複製品等を使用した普及事業（訪問授業）を実施し、期間中のべ約 1,000 人もの児童・生徒の皆様にご参加いただきました。複製品だからこそ出来る「松林図屏風」の魅力へのアプローチや、実際にミニ屏風を制作する創作体験、また一部の授業の中では考古作品の複製品などを実際に触って体感するプログラムも行い、長い歴史のなかで人々の生活が育んできたものを、守り、伝えていくことの意味をお伝えできるよう取り組みました。能登にゆかりのある文化財の複製品を用いたこの鑑賞体験が「地域の文化を守り伝える」心を育む機会となれば幸いです。



【国宝「松林図屏風」を題材とした映像コンテンツ事業】

能登・七尾の地に生まれた長谷川等伯によって描かれ、多くの人々を魅了する国宝「松林図屏風」。

この能登の地とも縁の深い作品を通じて、被災された皆様へ復興への祈りと励ましの想いを届けられるよう、本支援事業のうち映像事業として東京国立博物館と NHK が共同で制作した 3 DCG を使用し、NHK が映像を制作したコンテンツ『8K×国宝「いま見つめる松林図屏風」』（1 回約 30 分・無料）を上映します。

令和 7 年 3 月の七尾市内での先行公開、また石川県七尾美術館での同作品の公開にあわせた上映に続き、石川県立美術館での展示事業会期（11/15～12/21）中、同館 VR シアターでこちらの映像をご覧ください。



会場：石川県立美術館 VR シアター

期間：2025 年 11 月 15 日（土）～12 月 21 日（日）

上映時間：

11:30～、12:00～、13:30～、14:00～、15:30～、16:00～

各回：約 30 分

料金：無料

石川県立美術館 VR シアター

『8K×国宝「いま見つめる松林図屏風」』上映風景